

青刈ソルガム類の品種と栽培法について

第1報 品種について

大野 康雄・小野寺秀夫・佐々木 競・*佐藤 忠士

(岩手県立農業試験場県北分場・*岩手県立農業試験場)

Varieties and Cultural Method of Forage Sorghum

1. Varieties

Yasuo ŌNO, Hideo ONODERA, Takesi SASAKI and Tadao SATO

(Kenpoku Branch, Iwate-ken Agricultural Experiment Station
*Iwate-ken Agricultural Experiment Station)

1 ま え が き

北東北における青刈りソルガム類の種類別の伸長性・再生長性等の諸特性を把握し、栽培上の資料を得るために試験を行い、若干の知見を得たので報告する。

2 試 験 方 法

1. 試験場所：岩手農試県北分場
2. 栽培条件

3 試 験 結 果

1. 1 回刈り栽培

(1) 草丈、茎数の推移

① 種間雑種系はソルゴー系にくらべて草丈高く、茎数多く推移するが稈径(1.0mm~1.4mm)は細い。

② ソルゴー系は種間雑種系にくらべてモウソウソルゴーを除いて草丈が低く、茎数が少ないが稈径は太い。

③ スーダングラス系は種間雑種系、ソルゴー系にく

表1 試験方法

項目 刈取回数	播種期 (月.日)	播種量 (g/a)	栽植様式 (cm)	施 肥 量 (kg/a)
1 回	5. 31	100	畦幅・株間 60・7	堆肥~150 N~1.0+(0.5) P ₂ O ₅ ~1.0 K ₂ O~1.0
2 回	5. 30	400	畦幅・播幅 60・12	堆肥~150 N~1.0+(1.0) P ₂ O ₅ ~1.0 K ₂ O~1.0

注. *刈取り時期 (1) 1回刈り栽培：開花期~乳熟期 9月13日
(2) 2回刈り栽培：1番刈り~7月31日, 2番刈り~10月13日

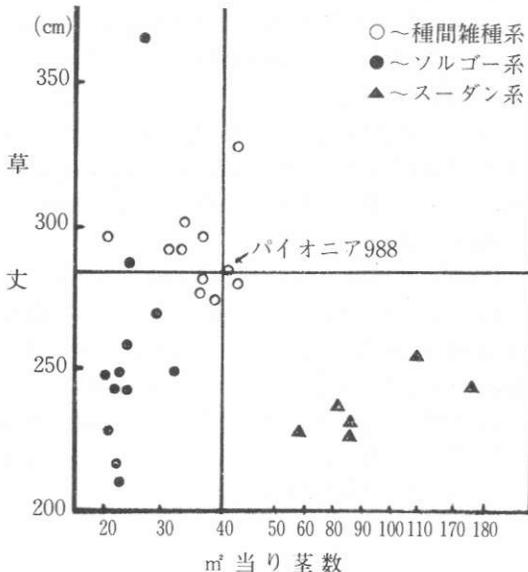


図1 草丈と茎数の関係(1回刈り栽培)

らべ草丈低く、稈径は極細(0.7mm~1.0mm)で茎数は極多である。

(2) 生草重と乾物重

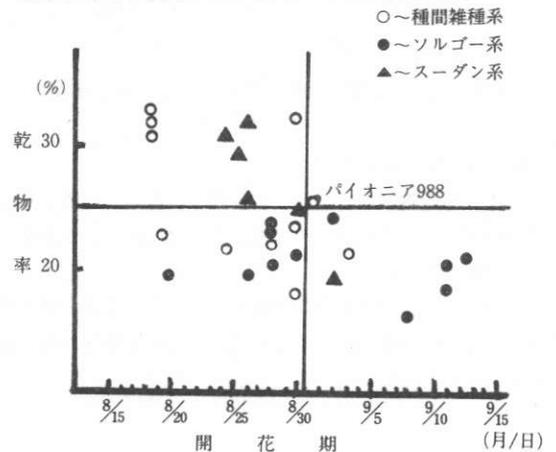


図2 開花期と乾物率(1回刈り栽培)

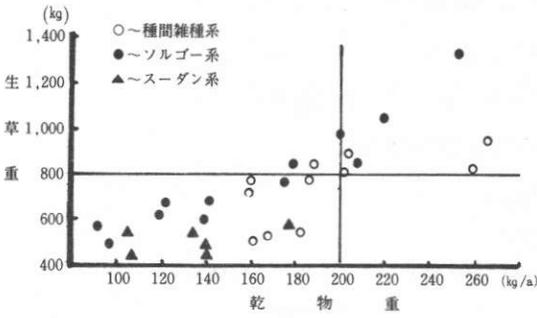


図3 乾物重と生草重の関係(1回刈り栽培)

① 種間雑種系はソルゴー系にくらべ、出穂～開花は早い品種が多い。a当たり生草重は500～950kgと幅があるが、乾物率は高い傾向にあった。

② ソルゴー系は種間雑種系にくらべ、生草・乾物重が多い品種もあるが、乾物率は全般に低い。

③ スーダングラス系は出穂～開花は種間雑種系並みの早い品種が多い。生草、乾物収量は劣るが乾物率は高い。

2. 2回刈り栽培(再生利用)

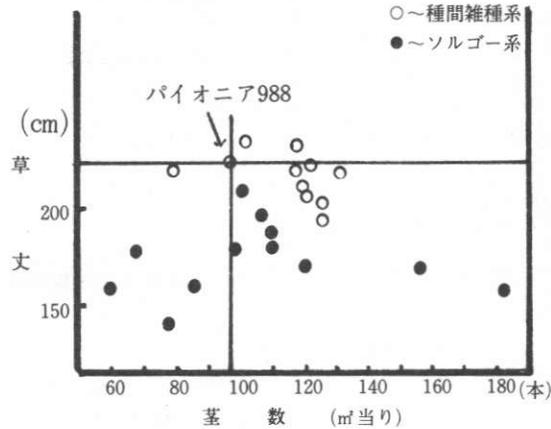


図4 草丈と茎数の関係(2回刈り栽培の1番刈)

(1) 草丈、茎数の推移

① 種間雑種系は1番、2番刈り時において草丈は高く推移する。1番刈り時のm²当たり茎数に比し、2番刈り時の茎数比が高い。

② ソルゴー系は種間雑種系にくらべ、1番、2番刈り時において草丈の伸長性は劣る。とくに2番刈り時の草丈の再伸長と茎数の再生が劣る。

③ スーダングラス系は草丈低く、稈径が細いが1番、2番刈りとも分けつ旺盛であった。

(2) 生草重と乾物重

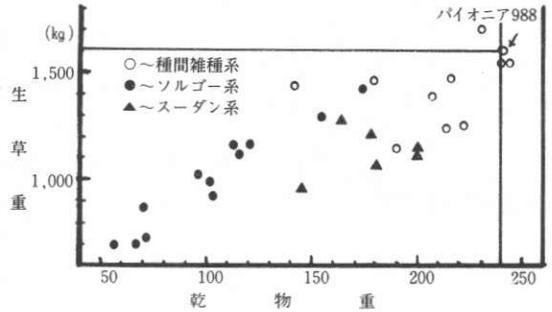


図5 生草重と乾物重(2回刈り栽培法) 1回刈+2回刈

① 種間雑種系は生草重は1番、2番刈り合計でa当たり1,021～1,583kgであり、乾物重も多収であった。

② ソルゴー系は1番、2番刈りとも草丈伸長性、茎数が劣り、生草重でもa当たり1,000kg程度と少ない。種間雑種系より生草収量が多収であっても乾物率は低いので乾草に日数を多く要した。

③ スーダングラス系は草丈の再伸長は優るが、稈は極細で生草収量は少ない。しかし、乾物率は高く乾物収量は比較的多い。

4 ま と め

1) 種間雑種系は分けつが多く、稈はやや細く、長稈で、早～中生の品種が多い。再生力は強く、再生長が早いことから逐次刈取り(ずらし刈り)による青刈り用に適する。

また、2～3回刈りの乾草用としても利用可能である。北東北のようなやや冷涼な気候地帯での収量はソルゴー系にくらべ優る。

2) ソルゴー系は中晩生が多く稈は太くて長く、分けつは少ない。2回利用の場合、再生、再伸長性に劣る傾向がみられ、サイレージ利用の1回刈り栽培でも一部の品種を除いて伸長性が劣り、含水率も高い。

3) スーダングラス系は分けつが極めて多く、また、早生種が多い。再生力・再伸長ともに優れており、種間雑種系と同様の青刈り利用が可能である。稈が細いので乾草利用に最適であるが、すす紋病に弱いのが難点である。

以上、系統別の特性について述べたが、安定的に北東北地方で栽培できる優良品種は種間雑種系に多く、次いでスーダングラス系であるとみられる。